



かわら版

NO.10

1月18日・2月8日に
ワークショップを開催しました

開校時期の目標と
令和2年度の推進体制について

めざす子どもの姿、めざす学校の姿、小中一貫校に必要な施設・設備等について、地域の皆様からご意見をうかがい、子どもたちにとってより良い環境づくりを目指していくため、1月18日と2月8日の両日にワークショップを開催しました。

当日ご参加いただいた方々には、貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。

< 1月・2月 ワークショップ >

- 日時 1月18日(土) 9:30~11:30 2月8日(土) 9:30~11:30
- 場所 多度まちづくり拠点施設
- 参加者 1月18日 20名 2月8日 18名 公募による多度地区の方

1 基本構想(案)について



ワークショップを始めるにあたり、令和元年12月に策定しました「多度地区小中一貫校多機能複合化事業 基本構想(案)」について、説明しました。基本構想(案)では、本事業に対する理念と、今年度皆様と話し合いを進めてきた、計画地及び複合化施設の方向性について記載しています。

今後、多度地区小中一貫校の具体的なコンセプトや施設・設備については、今回いただいたご意見をはじめ、さらにご意見をうかがいながら検討し、基本計画に反映していきます。

2 テーブルトーク 全体共有

両日とも、4つのグループに分かれて対話を行い、最後に全体共有を行いました。



3 各グループより

1月18日

- こんな子どもたちに育ってほしいな！
- こんな学校になったらいいな！

< テーマ >

2月8日

- 一貫校でこんな活動ができるといいな！
- こんな学校施設や設備があるといいな！

Aグループ

- ・ 地域や学校が協力し、地域を愛する
- ・ 地球規模で考える国際的な視野も兼ね備える
- ・ 自分に自信を持ち、進んで学習する
- ・ 十分な広さで伸び伸びした環境
- ・ 自然に親しめる環境
- ・ 小学校と中学校のギャップを埋めれる環境

- ・ 中地区以外を知る
- ・ 英語教育に力を入れ、SDG s の視点を持ち地球規模で考え行動できるような取組
- ・ 異学年が交流できるスペース
- ・ ビオトープなどの自然に親しむ環境
- ・ 防災学習ができる施設

Bグループ

- ・ 自分の夢を持ち、夢に向かって勉強する
- ・ 多様性を育む
- ・ 毎日行きたくなる学校
- ・ 子どもの成長を1番に考えたルールのある学校
- ・ スポーツ少年団等の活動を大切にしている学校
- ・ 先生にとっても魅力ある学校

- ・ 地域とのつながりや先生にゆとりづくりのための地域人材を活用した授業づくり
- ・ 景観を取り入れ、多度の木材を利用した校舎
- ・ 9学年の体格差を考えたゆとりが感じられる学校
- ・ 保護者や子どもが気軽に相談できる相談室

Cグループ

- ・ 自主的・能動的に学習する子
- ・ 他人の良さの分かる思いやりのある子
- ・ 体験や交流を通して、ふるさとを大切に思う子
- ・ 多度の自然に触れる体験教育
- ・ 地域行事に参加するなどの地域交流
- ・ 障がいや外国人の子等、様々な子どもの交流

- ・ 英語、タブレット教育を進めるためのWi-Fi等容量整備
- ・ 子どもの居場所として、フリースクール的な教室
- ・ 子ども同士が交流するオープンスペース
- ・ 保護者、地域の方が活動するスペースや交流スペース

Dグループ

- ・ 考える力がある
- ・ 自ら話すだけでなく他人の話も聞く
- ・ ルールを守り、社会に適応できる子ども
- ・ 先生のヤル気が出る学校
- ・ 子どもを本気で考えた大人たちが見守る学校
- ・ 教師や地域の人が話し合っつづつった学校
- ・ 勉強だけで子どもを評価しない

- 「安全な学校」をテーマとして
- ・ 車・自転車・徒歩の歩車分離や広い通学路
- ・ 高台避難や避難の観点から校舎の階数
- ・ 小学校と中学校のすみ分けされたグラウンド
- ・ グラウンドの安全管理しやすい位置の職員室
- ・ 安全な食のための自校給食室
- ・ 地域が見守る地域スペース
- ・ 地域と子どもが交流できる場所
- ・ 日常や避難時に活用できる広い屋根付きスペース

大切にしたい3つの視点！

「多度の自然や文化を大切にする学校づくり」

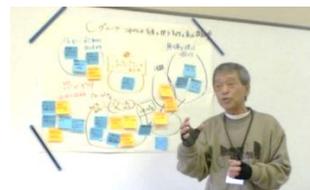
多度山や多度峡など豊かな自然や多度祭や石取祭などの伝統行事について深く学べる学校

「持続可能な社会の担い手を育む学校づくり」

子どもたちが直面する課題に自ら考え判断し、主体的に対応していく力や他者との関わりの中でともに支え合い、新しい社会を創っていく力を育める学校

「先生にとっても魅力ある学校づくり」

先生が心身共に健康で生き生きと働ける環境や小学校・中学校の先生が協力し、合理的に業務の整理を行うことができ、使い勝手の良い学校



4

ふりかえり シートより (一部抜粋)

1月18日

- ・ いろんな立場の人が参加できるように、またたくさんの方が同じイメージで（参加していなくても）何をどういうふうに話し合ったか分かるようにしてほしいです。
- ・ テーマが大きいため、どうしても浅い、常識的な内容になってしまう。もう少しテーマを絞り込んで多度の独自性を出してもよい。
- ・ デメリットや隠れている部分が聞けていない。良い事ばかりで中小近くで住んでいる身として不安。
- ・ 形だけのワークショップでは意味がない。小学校単位で意見を出せる場所を作してほしい。20人×2日で40名の意見で多度町の将来を決めないでいただきたい。小学校単位いろいろな年代の意見を取り入れることが必要。
- ・ なかなか良かったと思います。面積がどれくらいが適当か私には判りません。これは、現場の先生が具体的にイベント、授業の動線を具体的に設定して検討してもらえればと思います。

2月8日

- ・ ワークショップでは、いい意見があるが、本当にこれが出来るのだろうかと心配になる。（予算面から）
- ・ 市はサイレントマジョリティーの声、情報を集め、分析する努力を！
- ・ せっかくの4回をこれで終わらせずに、続けて行って、この場に現職の先生や保護者にもっと参加してもらって、今までのものに肉付けして行ってほしい。
- ・ 少なくなった子どもを地域みんなで育てていくということを大切にしていきたい。
- ・ 学校なので学力をのばすことに目がいきがちでしたが、「ふるさとを大切にす」という視点がすごく新鮮でした。核家族で感じる、きゅうくつさは地域や、ふるさとの交流が少ないことで感じるのかもと思いました。学校にどこまで求めてもいいかわかりませんが、（何でもかんでもおしつけがちなので）多度には見守ってくれる方が多くいて少し安心しました。（地域の方に頼ってもよいということ）

5

開校時期の 目標について

■ 3月議会 市長答弁

多度地区の小中一貫校の計画地をお示ししてから、地域の方々から特に保護者の方からは「いつできるんだ」というお声が強くなってきているということを報告も受けていますし、私としては市全体の財政も司る立場でありますけれども、その中で長期の財政推計を見ながら他の事業等の兼ね合いもあって、早い目に開校年度をお示するのは非常に重要なことだろうと認識しています。その中で、用地取得などによって前後する部分もあるかと思いますが、**多度地区の小中一貫校の開校時期については、令和7年4月の開校を目標**としてこの事業については進めてまいりたいと考えております。

開校時期については令和7年4月の開校を目標とし、今後も皆様と対話を行いながら、子どもたちのより良い学習環境づくりを目指して事業を進めていきます。

6

今後について

「Q&A集」の掲載について

今までの懇話会やワークショップの中で皆様からいただいていたご質問について項目ごとにまとめ、市としての考えをお伝えするために、4月中旬を目途に桑名市ホームページに「Q&A集」を掲載します。

なお、市としての考えは現時点のものであり、事業の進捗によってその都度更新、変更をしますので、ご承知おきください。

あわせて、ワークショップの詳細も掲載していますので、ご覧ください。
(桑名市ホームページのアドレスは、このページの下をご覧ください↓↓)

令和2年度の推進体制について

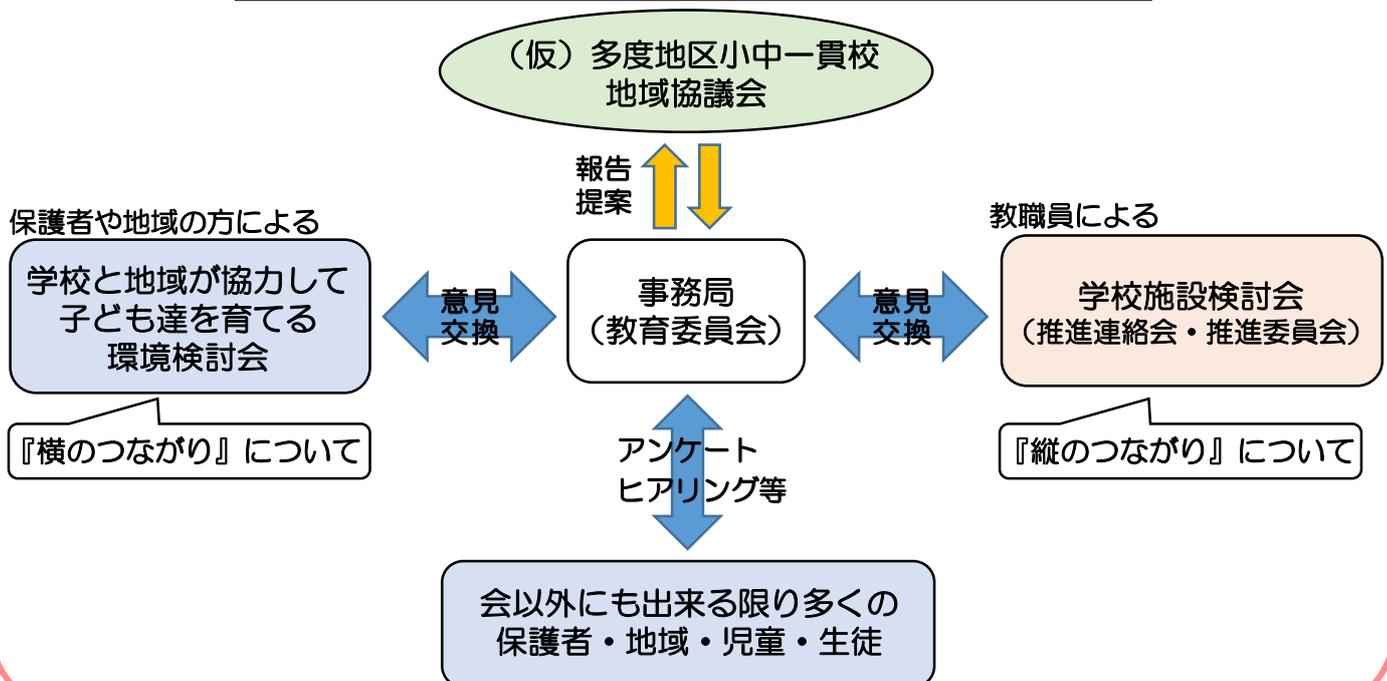
本事業を進めるにあたり、令和2年度より「(仮称)多度地区小中一貫校地域協議会」を設置し、基本計画の策定に向けて協議を進めていきます。

「地域協議会」では、基本計画の策定に関する事項等について検討し、その中で必要に応じて保護者・教職員・地域・児童生徒に意見の聴き取りを計画していきます。委員は、保護者・地域・学校の代表者、有識者、一般公募による市民委員に依頼する予定です。

「学校施設検討会」では、教職員による校舎や体育館、グラウンドなど学校施設の検討を行います。

「学校と地域が協力して子ども達を育てる環境検討会」では、保護者や地域の方によるコミュニティ・スクールの充実や地域を活かした学校づくり、安全な通学確保などの検討を行います。

令和2年度 多度地区小中一貫校多機能複合化事業 推進体制



つきましては、「(仮称)多度地区小中一貫校地域協議会」の市民委員を募集します。詳細については、4月1日(水)に桑名市ホームページに掲載する予定です↓↓

桑名市ホームページ: www.city.kuwana.lg.jp → 市政 → 教育委員会 → 小中学校